共に考え前進する畜産経営支援をめざして

社団法人　岡山県畜産協会
経営指導部　　山谷　勝宣

「はじめまして、今回筆を執ることになりました山谷と言います」。でも、私の名を目にされた方はほとんどないと思います。私は高校を卒業した後は就職する予定でしたが、親がまだ若かったこともあって東京の大学へ進学し、そのまま東京都へ就職しました。そして、長年改良普及員暮らしの末、昨年３月に東京都を退職しました。その後、年寄った親の手助けと農業を行いながら、今流行の田舎暮らしで過ごそうと故郷へ帰ってきました。

ところが、人の話の伝染は速いものなのか？「岡山県畜産協会で働いてみないか」との話をいただきました。生来断ることが苦手なこともあって、７月から畜産アドバイザーとしてお世話になることになりました。そして、家が県北部の田舎に在ることから、蒜山酪農農業協同組合生産課に机を借りることになりました。

担当する地域は、県北部の美作県民局（真庭支局、勝英支局）、備中県民局（新見支局）です。業務は、和牛繁殖農家など経営診断農家の経営調査や技術・資金相談などの支援を行う畜産経営技術高度化促進事業や飼料自給率の向上をめざした取り組みである稲発酵粗飼料（稲ＷＣＳ＝ホールクロップサイレージ）の給与調査や成分分析、公共牧場の草地管理調査などを行う国産飼料資源活用促進総合対策事業などとともに、蒜山地域のジャージー酪農を中心とした取り組みへの支援を進めています。

以下、その活動についてお知らせします。

（１）畜産経営改善支援モデル事業

～規模拡大に適応したジャージー酪農の経営安定対策～

蒜山地域の酪農を支えているジャージー酪農は世代交代期を迎えており、経営規模の大型化やフリーストール・フリーバーン、ＴＭＲへの転換など、飼養管理方式も変化してきています。しかし、その効果が十分には発揮できていないことから原因や課題の究明を進め、具体的に改善への取り組みを進めてジャージー酪農の振興を図ろうと、蒜山酪農農業協同組合を中心に関係機関・団体が連携を強化して平成２２年度まで支援を進めるものです。

具体的な取り組みとして、

１）高い粗飼料自給率をさらに有効化する取り組み

蒜山地域の酪農の最大の特徴は、イネ科牧草のロールベールサイレージを核にした粗飼料自給率の高さにあります。しかし、栽培草地の植生の良し悪しや、牧草の刈り取り・調整が天候により大きく左右されるなど品質が不安定となることから、良質な粗飼料を多く確保し、それを有効に活用していくことが大きな課題です。

そこで、①土壌診断を行い、適正な施肥（特に石灰質資材の施用やカリ成分の減肥など）の励行を進めていますが、肥料価格の高騰で施肥体系への影響が懸念されます。また、②ロールベールサイレージやＴＭＲの成分分析を行うことによって飼料給与体系の改善、特に、ＴＭＲ給与酪農家においては、いかにすれば牛に十分な乾物摂取量を採食させることができるかが大きなテーマです。牛の強弱や選び食いなど解決すべき問題は多岐に亘っていますが、ロールのきちんとした細断の励行や攪拌時間の短縮など酪農家の手の付けやすいところから進めてきています。また、２群管理の検討なども行っています。さらに、③ＴＭＲ給与酪農家においては生乳黄色度が基準以下の場合が多いことから、飼料中のビタミンＡ（β―カロチン）含有量調査や、牛個体別の乳量、乳質と黄色度の関係などの調査を行いましたが相関は無いようです。飼料摂取量との関係が高いと思考されま

すが、課題の解決に向けて検討を進めています。

２）健康な牛づくりへの取り組み

ジャージー牛の飼料給与において必要なもの、無駄なものを判明して、健康な牛づくりを進めるため、共済連生産獣医療支援センターを中心に代謝プロファイルテストを実施して飼養改善を進めています。

特に、乳牛の飼養管理の中において乾乳期の飼養管理の重要性に着目し、乾乳牛の代謝プロファイルテストの実施により、クローズアップ期の飼養管理の充実を図る取り組みを推進しています。

３）安全・安心な生乳生産への取り組み

生乳の衛生管理の向上を進める乳質改善への取り組みも強力に推進しています。真庭家畜保健衛生所が搾乳機器類の細菌検査を実施して、個別に改善指導を進めています。ライナーゴムなど消耗部品の定期的な交換や洗浄方法、特に酸洗浄、殺菌剤の利用方法などに力点をおいています。

また、正しい搾乳を行い、乳房炎を防止しようとミルカー点検をおかやま酪農業協同組合等を中心に順次進めて、搾乳施設の保守・整備の実施指導を行っています。

４）経営実態の把握と経営者意識の向上への取り組み

真庭農業普及指導センターが主体に行っているパソコンを活用した農業簿記講座や、経営研修会の実施への支援を行っています。

その他、最近の調査では牛群検定成績の泌乳曲線が蒜山地域特有ではないかとのことや、ジャージー種について飼料嗜好性や乾物摂取量など未解明な部分が多く存在するなど、課題も次々とありますが、一歩でも前進する取り組みを進めて行くこととしています。

（２）人材活用モデル体制整備事業

机に座るやいなや早速待ち構えていた業務です。酪農や蒜山地域の理解醸成を進めようと、蒜山を訪れた学童や生徒、消費者などにジャージー牛を主力とした蒜山地域の酪農体験や見学、アイスクリームやバターづくり体験のガイドを行っている。「酪農ガイド」の勤務割り当てを行うことでした。

丁度、７月から新たにジャージー牛搾乳体験が始まり、夏休みから秋の遠足、行楽シーズンを迎えて牧場体験の開催日が多くなっていました。酪農ガイド登録者は蒜山地域の方がほとんどで、酪農家の女性を含めた一般の方が１１名、シルバー人材センター８名の合わせて１９名が活動しています。

勤務割り当ては、一般のガイドとシルバー人材センターとがなるべく半々となるように考慮して、シルバー人材センターについては事務局へ派遣を依頼します。一般のガイドの割り当てを行う際、当初は電話のみで行っていました。しかし、「少し返事を待ってもらいたい」「土・日は都合がつかない」等々の返事もあって、なかなか進まないことに少し困惑しました。ところが、時が経つのと私が困っていることを感じられたのか、女性のグループで話し合って希望日程を出してもらったり、出る方がいない時は連絡くださいと言われるガイドの方や、携帯電話やファックスでの対応が出来るようになり、大変スムーズに運ぶようになってきました。本年もコールデンウィーク辺りから多忙となりそうですので、酪農ガイドの方の積極的な参加をお願いします。

また、新たに酪農ガイドをやってみたい人、興味を持たれている方は、是非一緒に活動してみませんか！